神奈川・今小路西遺跡（福祉センター用地）

1　所在地　神奈川県鎌倉市御成町

2　調査期間　一九八七年（昭62）一月～一九八八年五月

3　発掘機関　今小路西遺跡発掘調査団

4　調査担当者　河野真知郎

5　遺跡の種類　古代官衙跡・中世市街地

6　遺跡の年代　八～一九世紀

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡地は鎌倉市街地の西辺街路である今小路の西方にあり、県の遺跡台帳では南北一km以上もの範囲が「今小路西遺跡」とされている。発掘調査地点には（　）内に固有名詞か地番を入れて区別しているが、ここに紹介する木簡を出土した地点は、福祉センターの建設予定地なので、この名称を採っている。

（横須賀）

調査地点は鎌倉平野の西端部で、北背後に尾根を背負うが、山裾の沖積地といえる。現地表の標高は七mほどである。調査地点の北方五〇mには、一九八五年度に、「天平五年」銘木簡を出土した今小路西遺跡（御成小学校内）がある。

発掘調査では、近世水田跡と中世末の溝の下層に、中世前期の生活面が検出された。この面の北部は東西方向の自然流路（川跡）になっており、前述の御成小学校内の土地区画とは異なる方向を示している。調査区東部には北方河川に注ぐ溝が検出されたが、これは道路側溝を兼ねる武家屋敷外周の溝であろう。この溝より東側は武家屋敷、西側は町屋になっていたものと考えられる。

木簡はこの河川に注ぐ溝の鎌倉時代後期頃の堆積土より出土した（川岸より南へ八mの地点）。周辺の覆土からは陶磁器片や土器片とともに、木器（板草履、箸、漆塗椀・皿など）や食物残滓（貝、魚骨、鳥獣骨、瓜・栗・桃の種子など）が出土している。遺物出土状況は、武家屋敷の外周の溝でのあり方ではなく、庶民が生活遺物を道路側溝に盛んに捨てていた様子がうかがえる。このことが木簡の性格について、ある種の示唆を与えてくれるかもしれない。

なお、本地点の最下層では、古代官衙に関連するかと思われる掘立柱建物が検出され、中世以前には北方河川はずっと南を流れていて、この地は御成小学校内の郡衙政庁と考えられる場所と地つづきだったと思われる。一九八九年度も発掘調査は継続しており、古代については別の機会に紹介したい。

8　木簡の釈文・内容

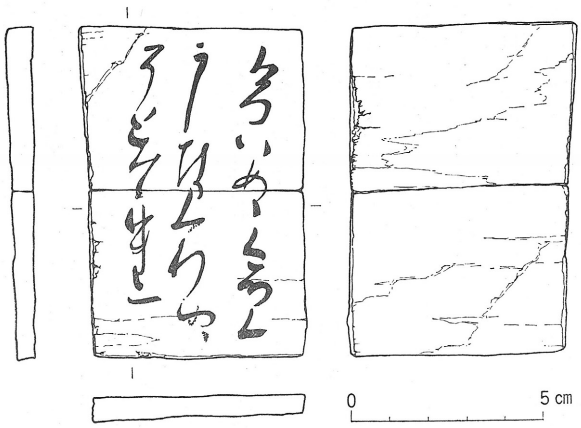
(1)　「今日いめ参られ
　　かし故上り□
　　に□〔もカ〕□れ　」

88×56×6.5　065

長方形の木板の片面に三行にわたって文字が墨書されている。長い板材を横に切って作った白木の板で、中央で二つに割れているが完形品である。中世に多い折敷板断片を使用したものではなく、独立のカードのようなものと思われる。釈文は鎌倉国宝館長三浦勝男氏によるものだが、「ひとつの読み方として」示されたものなので、最終判断ではないことを断っておく。

内容は措くとして、カード形の完結した板に文字の書かれた例は、鎌倉においては浄明寺稲荷小路遺跡と雪ノ下南御門遺跡に、一例ずつ検出されているが、いずれも内容が判読できていない。本例の場合、呪文や戯れ唄、落書の類ではなく、伝達文のように思われるので、中世の雑多な木簡についてももう少し分類しながら検討を加えてゆく必要性を感じる。

9　関係文献

河野真知郎「今小路周辺遺跡（御成小学校内）」（『木簡研究』第八号一九八六年）

（河野真知郎）